

# たまねぎレポート【第378号】



平成31年4月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

3月の天候は、気温が全国的に高く、東・西日本はかなり高かった。日照時間は、ほぼ全国的に多かった。降水量は、北日本と東日本の日本海側で少なく、沖縄・奄美で多かった。4月の天気概況は未だ発表されていないが、温暖と花冷えで日毎の寒暖の差が大きかった。桜の開花は平年より早かったが、満開までの期間は遅く、花見の期間が長くなった地域が多かった。

気象庁の5～7月の3か月予報に依ると、平均気温は、沖縄・奄美で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

6月、北日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

7月、北日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

## 主要(市場)の動き

### 野菜の概況

3月の建値市場の野菜の販売量は、218,311トン前年比93%で、主要野菜を始め多くの品目で出回り量が減少傾向であった。総ての建値市場で前年比減となったものの、平均単価は前月に続き前年比安であった。数量減の価格安で、総体的には厳しい販売環境であった。

市場別の入荷量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比86%、平均単価はkg ¥190で前年比79%。東京市場の販売量は前年比94%で、平均単価はkg ¥230前年比89%。名古屋市場は前年比96%の販売量で、平均単価はkg ¥206前年比90%。大阪本場は前年比94%の販売量で、平均単価はkg ¥215前年比89%。福岡市場では前年比85%の販売量で、平均単価はkg ¥169前年比99%となっている。

建値市場の3月の玉葱販売量は、28,755トン前年比95%で、大阪本場以外の市場は前年比減であった。平均単価はいずれの市場も、前年比高で、他の品目に比べ好市況を持続した。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は5,556トン前年比80%、平均単価はkg ¥107前年比121%。東京市場の販売量は10,529トン前年比95%、平均単価はkg ¥133前年比105%。名古屋市場の販売量は6,594トン前年比91%、平均単価はkg ¥116

前年比117%。大阪本場の販売量は3,716トン前年比114%、平均単価はkg¥130で前年比108%。福岡市場の販売量は2,360トン前年比95%、平均単価はkg¥122前年比112%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の3月の主要野菜14品目の販売量は、92,910トンで前年比3%減、平均単価はkg¥131前年比18%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ニンジンが前年比27%増、タマネギが11%増、ネギが9%増など5品目。前年比減の品目は、結球レタスが前年比29%減、ホウレンソウが22%減、ピーマンが21%減など8品目。価格が前年比高の品目は、ピーマンがkg¥575で前年比22%高、トマトがkg¥373で18%高、サトイモがkg¥305で15%高など8品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥47で前年比56%安、キャベツがkg¥56で52%安、ニンジンがkg¥94で50%安など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷は、123,182トン前年比94%（前月比108%）。平均単価はkg¥230前年比89%（前月比99%）となっている。主要品目で入荷が前年比増の品目は、ニンジンが前年比125%、キャベツが112%、ナスが109%など3品目。前年並みはネギの1品目。入荷が前年比減の品目は、レタスが前年比75%、ダイコンが80%、トマト・キュウリが86%など11品目。販売単価が前年比高であった品目は、トマトがkg¥409で前年比115%、ピーマンがkg¥619で111%、サトイモがkg¥316で106%など7品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥46で前年比34%、キャベツがkg¥62で45%、ニンジンがkg¥107で54%など8品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	123,182	94.2	107.9	230	89.0	99.1
た ま ね ぎ	10,529	95.0	116.2	133	105.1	86.4
キ ャ ベ ツ	19,841	112.3	128.0	62	44.9	77.5
は く さ い	7,420	93.2	59.5	46	34.2	121.1
だ い こ ん	9,739	79.5	99.1	76	65.7	93.8
ば れ い し ょ	7,235	93.1	97.5	114	101.9	107.6
レ タ ス	7,274	75.0	106.1	167	99.6	83.5
に ん じ ん	7,566	125.4	127.5	107	54.3	105.9
ト マ ト	5,965	86.0	119.6	409	115.1	108.5
き ゆ う り	5,841	86.4	131.2	330	107.7	89.9
ね ぎ	4,082	100.3	98.3	244	64.9	82.7
か ぼ ち ゃ	2,591	90.3	126.0	151	118.1	86.8
な が い も	888	88.6	124.5	335	108.9	98.8
れ ん こ ん	653	82.7	95.3	544	126.6	114.8
に ん に く	287	93.4	87.8	841	80.5	95.7

### 玉葱の概況

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷量は、10,529トン前年比95%（前月比116%）であった。北海物が前年比23%減となったが、府県の早生物の生育が順調で、北海物の減少をカバーした。主力は依然北海物だが、産地の在庫減で、入荷量は6,375トン前年比77%、占有率61%で前年比14ポイ

ントダウン。静岡物は、2,064トンの入荷量で前年比143%、占有率20%で前年比7ポイントアップ。佐賀物は1,017トンの入荷で前年比594%、占有率10%で8ポイントアップ。月平均単価はkg ¥133前年比105%前月比86%で堅調を維持した。産地別平均単価は、北海物がkg ¥133前年比129%。静岡物はkg ¥142前年比65%。佐賀物はkg ¥136前年比65%となっている。需給を反映し、北海物は前年比大幅高、府県の新物は前年比大幅安となった。

4月に入り、佐賀産の早生物主力に、長崎、愛知産の早生物の併売となった。買い手の引きは強く、荷動きは順調であった。日毎に入荷増が予想され、市況は値下がり傾向が続くと予想されていたが、横這い相場が続いた。荷凭れ傾向が続いていた北海物も、入荷減から在庫が減り、需給は改善し保合相場からL・Mは強気配となったものの、L大の荷動きは鈍く、厳しい販売が続いた。月半ばには、北海物と佐賀物が主力となった。相場は概ね同水準となったが、佐賀物は大粒傾向で2Lの比率が高く、2Lは値下がり傾向となった。北海物は、産地の指示価格に副った販売でそれなりの動きであった。4月1日～20日の販売量は8,944トン前年比117%。平均単価はkg ¥125前年比121%。産地別では計画出荷の北海物は4,690トンで前年比102%、平均単価はkg ¥129前年比130%。生育前進化の佐賀物は3,365トンで前年比176%、平均単価はkg ¥121前年比115%。終盤の静岡物は183トンで前年比54%、平均単価はkg ¥124前年比103%。長崎物は140トンで前年比41%、平均単価はkg ¥128前年比107%となっている。総じては、入荷増ながら価格高で、他野菜に比べ順調な販売であった。

### 名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、6,594トン前年比91%（前月比106%）で前年比減、前月比増であった。主力は引き続き北海物で販

売量は、4,958トン前年比76%、占有率は75%前年比15ポイントダウン。静岡物の販売量は990トン前年比178%、占有率は15%前年比6ポイントアップ。愛知物の販売量は517トン前年比510%。平均単価はkg¥116前年比117%(前月比90%)。産地別では、北海物はkg¥108前年比126%、静岡物はkg¥147前年比67%。愛知物はkg¥128前年比62%となっている。

4月に入り、地場産地の愛知物の入荷が、日々増加傾向となったが、引き合いが強く、荷動きは順調であった。他方、静岡物は、終盤で入荷は減少、品質も劣化が目立った。北海物は、依然荷動きが鈍く厳しい販売が続いた。特にL大の動きが悪くなった。月半ばになり、愛知物の入荷は予想外に少量で、品薄状態が続き、仲卸のなかには、代替えに北海物をとの動きがあったが、北海物も入荷が少なく、事前契約販売で一見客に回す余裕はなかった。此処に来て、愛知物の入荷は増加傾向にあるが、大粒で球流れは、2L45%、L50%、M5%で、他市場と同様に2Lの動きは鈍い。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は、3,716トン前年比114%(前月比113%)で、北海物と兵庫の冷蔵物は前年を下回ったが、新物の静岡、長崎、佐賀が大幅増となったことで、販売量は前年を上回った。主力は引き続き北海物で、販売量は2,055トン前年比94%、占有率55%前年比12ポイントダウン。兵庫の冷蔵物は245トンで前年比77%、占有率は7%前年比3ポイントダウン。静岡物は347トン前年比143%、占有率は11%前年比3ポイントアップ。長崎物は814トンで前年比180%、占有率は22%で前年比8ポイントアップ。佐賀物は215トンで前年比468%。占有率は6%で5ポイントアップ。となっている。月平均単価はkg¥130前年比108%(前月比88%)。産地別では、北海物がkg¥130前年比135%。兵庫物はkg¥159で前年比10

6%。静岡物はkg ¥130で前年比60%。長崎物はkg ¥126で前年比72%、佐賀物はkg ¥112前年比72%となっている。北海、兵庫のヒネ物が前年比高。静岡、長崎、佐賀の新物は前年比安であった。

4月に入り、北海物は販売調整で、入荷量が少なめとなり相場維持の販売。府県の早生は静岡が終了し、長崎、佐賀が主力となった。荷動き良く相場は強保合となる。長崎は南高地区がピークを過ぎ、諫早地区に移行したが、手入れが良く、品質良好で引き強く堅調な動き。佐賀は、入荷増傾向となるも、銘柄別の品質に格差があり、高安まちまちだが、それなりに荷動きは良かった。兵庫は走りが入荷したが、地域ブランドの浸透で引き強く堅調。北海物は入荷減少で、需給が均衡し相場を維持した。月半ばには、新物主力の販売となったが、兵庫、佐賀、長崎ともに、荷動き良く堅調な動きとなった。北海物はCA貯蔵物が高く、銘柄別の格差が開いた。此処に来て、大型連休用の手当て買いが、見受けられるものの、入荷は順調で新物、北海物ともに弱含みの動きである。特に、新物は2Lの比率が高く、受け皿探しに苦労している。4月1日～20日の入荷量は2,757トン前年比114%、平均単価はkg ¥120前年比120%。産地別では、北海物が1,233トン前年比104%、平均単価はkg ¥117前年比129%。佐賀物は797トン前年比188%、平均単価はkg ¥118前年比115%。長崎物は505トン前年比73%、平均単価はkg ¥118前年比111%。兵庫物は208トン前年比378%、平均単価はkg ¥146前年比87%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、2,360トン前年比69%（前月比143%）で、前年比減の前月比増となっている。引き続き主力の北海物の入荷が落ち込んだことが影響した。北海物の販売量は1,143トン前年比41%、占有率は48%で前年比33ポイントダウン。長崎物は626トンで前年比

165%、占有率は27%で前年比16ポイントアップ。佐賀物は257トン前年比1,186%、占有率11%前年比10ポイントアップ。中国物は247トン前年比164%、占有率は10%で前年比6ポイントアップ。平均単価はkg¥118前年比117%(前月比91%)で、堅調を維持した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥132前年比147%。長崎物はkg¥112前年比64%、佐賀物はkg¥104前年比59%、中国物はkg¥78前年比91%。となっている。

4月に入り、佐賀、長崎、北海物がほぼ均等の入荷となり、新物は荷動き良く日々完売が続いた。関西市場で割高相場が続き、九州市場向けの入荷は増えない状況となった。北海物は入荷の減少傾向が続いたことで、荷動きが回復歩調となった。月後半には、長崎物の入荷はピークを過ぎ、新物は佐賀物主力の販売となる。荷動きは良好で相場は堅調に転じた。北海物は、契約物主力で相場は変わらず。大型連休を控え堅調な動きとなった。此処に来て、佐賀物主力の販売となっているが、大粒で2Lの比率が高く、2Lの販売に苦労している。L・Mの動きはまずまず。北海物は入荷少なく相場は変わらず。4月1日～20日の販売量は、1,907トン前年比121%、平均単価はkg¥106前年比105%となっている。此の先、新物は最盛期となり、販売環境は厳しくなりそうだ。

#### 4月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 入荷221トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800～2,650、L大 ¥3,000～2,700、 入荷なし

佐 賀 20kgDB2L ¥2,000～ L ¥2,800～ M ¥3,000～

**【太田市場】** 入荷355トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,500～2,300、L大 ¥2,500～2,300、L ¥2,500～2,300、

M ¥2,200～2,000。

長崎10kgDB2L ¥ 650 ~ 600、L ¥ 1,200 ~ 1,100、M ¥ 1,200 ~ 1,100。

佐賀20kgDB2L ¥ 2,500 ~ 2,300、L ¥ 2,500 ~ 2,300、M ¥ 2,500 ~ 2,400。

**【名古屋北部】** 入荷132トン 弱い

北海道20kgDB2L ¥ 2,400 ~ 2,300、L大 ¥ 2,600 ~ 2,500、L ¥ 2,500 ~ 2,400。

愛知10kgDB2L ¥ 1,000 ~ 900、L ¥ 1,400 ~ 1,200、M ¥ 1,000 ~ 900。

愛知20kgDB2L ¥ 1,800 ~ 1,600、L ¥ 2,400 ~ 2,300、M ¥ 2,000 ~ 1,800。

**【大阪本場】** 入荷97トン 強保合

北海道20kgDB2L ¥ 2,500 ~ 2,400、L大 ¥ 2,800 ~ 2,500、L ¥ 2,800 ~ 2,500。

長崎10kgDB2L ¥ 900 ~ 700、L ¥ 1,600 ~ 1,400、M ¥ 1,400 ~ 1,300。

佐賀10kgDB2L ¥ 900 ~ 700、L ¥ 1,600 ~ 1,400、M ¥ 1,400 ~ 1,300。

佐賀20kgDB2L ¥ 1,400 ~ 1,300、L ¥ 2,800 ~ 2,600、M ¥ 2,700 ~ 2,600。

兵庫10kgDB2L ¥ 1,000 ~ 800、L ¥ 1,400 ~ 1,200、M ¥ 1,400 ~ 1,300。

**【福岡市場】** 入荷158トン 保合

北海道20kgDB2L ¥ 3,000 ~ 2,800、L大 ¥ 3,000 ~ 2,800、L ¥ 3,000 ~ 2,800。

佐賀10kgDB2L ¥ 800 ~ 600、L ¥ 1,500 ~ 1,300、M ¥ 1,400 ~ 1,200。

## 供給(産地)の動き

### 北海道産地

出荷は終了し、在庫はオーホツク地区JAの冷蔵物のほか、JA富良野のCA貯蔵物以外は量的に限られている。終盤の市況は、高値を維持し30年産の販売は好調裡に終了する。既に、全道的に定植が始まっている。苗立ちは総じて良好であったが、気温の変化で昨年に比べると総じて若苗定植となっている。今年も定植作業は前進化傾向で、悪天候に見舞われない限り、大型連休中にはほぼ終了する。

## 府県産地

府県産地の早生の出荷は、静岡が終了し、長崎も終盤を迎え、佐賀がピークを迎え、愛知、淡路が本格化する。いずれの産地も早生の作柄は、大豊作亦是豊作である。佐賀のJA系統の栽培面積は、1,691ha前年比93%。品種別では、極早生248ha前年比93%、早生677ha前年比97%、中晩生766ha前年比91%となっている。病害が一部で発生しているが、抜き取りと防除の徹底で被害は前年より少ない。直近1週間の選果の球流れは、2L41%(前年11%)、L43%(50%)、M5%(22%)、S1%(14%)、B10%(3%)で反収は8~7トンで大豊作である。

兵庫の淡路産地も生育は順調で豊作型で推移している。栽培面積は1,445ha前年比99%。品種別では早生は301haで占有率21%、中生は859haで占有率59%、晩生は270haで占有率19%、赤玉15haで占有率1%となっている。作柄は早生は大豊作が確定的で、中晩生は豊作を予想している。早生の出荷が始まっているが、球肥大が良く2Lの発生率が高いし、格外も多い。べト病の発生は平年並みか少ない。4月の高値市況を反映して、産地相場は20kg切り落とし裸値¥2,000で始まったが、昨今では¥1,500前後に落ち着いている。早生の出荷は現在のレクスター種と七宝早生種との間に谷間が出来そうで、連休時に在庫過多にならないと見ている向きが多い。

## 外国産地

3月の輸入は、速報値で24,914トン前年比92%。中国物が全体の90%弱を占めている。国別では中国が22,082トン前年比92%。アメリカが1,368トン前年比311%。ニュージーランドが739トン前年比39%、タイが598トン前年比78%。オーストラリヤが127トン前年比198%となっている。

中国、現在の出荷は雲南省に移行している。栽培面積は前年の安値を反映して、減反傾向となったが、生育は順調で生産量は前年を上回ると予想されている。5月

の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$10.00である。

ニュージーランド、昨シーズンは減反、減収に加え、欧州市場が堅調で、日本向けは激減したが、此処に来て需要が落ち着き、オファー価格も値下がりしている。5月入港の日本向けで、70～80mmサイズ・20kg・C&F・¥1,300。となっている。

## 5月の市況見通し

4月の市況は、予想に反し堅調に推移し、月初めから月末まで大きな変化のない状態で推移し、月末から改元を迎える大型連休になる。平年と異なり出荷から小売りに至るまで、今までにない休日が発生する可能性がある。通常なれば、府県産の早生の大豊作で、5月市況は低迷し、値下がりが続くが、今年は輸送が中断されることで、市場入荷が制限され、値下がり幅は例年に比べ少ないと予想する。(了)